設立　平成24年　5月15日
開塾　平成24年　9月　8日
発行　平成26年　7月12日
（21号）

中之島ニュース

［事務局］　〒648-0094
橋本市三石台4-1-15
TEL 0736-38-3669
FAX 0736-38-3680
文責　事務長　宮本眞弓

人間学講座
第24講

「〝縁〟は求めざるに生ぜず」

廣瀬壹心　先生

■縁は真理なり

私は三八年間中学校の教師をし、最後の九年間は校長でした。務めを終える前に、いったい自分は何を学んできたのか？との思いがふとよぎりました。

あらためて振り返ると、自分は人間関係に一生懸命取り組んできた。縁について自分なりに学び、工夫し、実践してきたのではないかと思いあたり、退職後は「ご縁の人間学」を勉強し、実践していこうと思えました。

お釈迦様が「縁は真理なり」と言われていますが、私独自の縁の考え方には、次の６つがあります。

■ご縁の六ケ条

一、いのちの根源！

いのちの元を考えるとき、私の上には親がいて、親の上には親がいる…。そう考えていくと、縁というのは、ずっとたどっていけば、いずれみんな繋がります。「あなたがいるから私がいる」という世界観になる。

いじめ問題について、「いじめをなくしましょう！」などと呼びかけても効果などない。しかし、いのちの根源は同じということがわかれば、子どもたちは変わります。子どもの感性は鋭いから、真理の話をすると伝わるのです。

二、引き合っている！

お手玉を落とすと、落ちるのは万有引力があるから。しかし、実際にはお手玉も地球を引っ張るエネルギーを出している。つまりお互いに引き合っている。地球と太陽も引き合いながら運動しているように、ご縁とはこのように、お互いに引き合っているものです。それは、言いかえれば、全てのものは影響し合っているということです。

三、心のものさしをとろう！

現代人は計算するのが大好き、心の中に固いものさしを持っています。そんなものはとってしまうことが肝心。心のものさしをとれば、真理のご縁が訪れます。

四、万物動的平衡ゆえに相補的！

この世は、陰陽で成り立っています。そして実は、陰の中に陽があり、陽の中に陰がある。「逆境は神の恩寵的試練なり」という森信三先生のお言葉にも、動的平衡であり相補的である真理が表現されています。

五、プラスの言葉を！

われわれの心の中には、宇宙と繋がる潜在意識があります。潜在意識には、使い続けた言葉がたまっていきます。宇宙の法則では、投げかけた言葉は自分に返ってくる。意識的に「良い言葉」を投げかけることで、自分に大きなプラスが返ってきます。

聖書にもあるように、言葉は神です。言葉を出すと宇宙まで届いてしまう。マイナスな言葉を使うと潜在意識は汚れて黒くなる。黒くなってしまうと、いくら良いことを言ったとしても、行動には繋がらなくなる。自分の潜在意識をきれいな澄んだものにするためには、プラスの言葉を使い続けることが不可欠。楽しいね、うれしいね、元気だ…等、一言一言言うたびに澄んだ一滴一滴が潜在意識に落ち、浄化されていきます。

読書会では、音読をしますが、先人の残した良い言葉を声にすることで、潜在意識の曇りも取れてゆきます。潜在意識が浄化されると、何も思わなくても躊躇なく行動できる人間になれます。

また、ハガキを書くということも、プラスの言葉に繋がります。ぜひ、どんどんハガキを書きましょう。

六、納豆のようなご縁を！

〝大豆〟の状態だと豆同士バラバラですが、〝納豆〟は糸で互いに繋がっています。豆を人間に例えると、この糸は「縁」。人間関係を思うとき、決して〝豆腐〟のような関係になってはいけない。豆腐には豆の形が残っていない。納豆には一粒一粒の形がある。ここが大事で、形とは自己存在感であり、主体性。これを失ってはならない。個を確立していくことは非常に重要なことである。個を確立し、高め続けてゆくと無限の力となり得るのです。

人間は大宇宙の中の小宇宙。個を磨き高めることこそが真に学ぶ意味であり、それは宇宙との融合となって、森信三先生の仰言る全一学となり得るのです。

■今ここ立腰ありがとう

全一的大宇宙は「積極」がポイントです。それは陽そのもの、愛そのものと言えるでしょう。

私なりに全一学を研究するなかで、いのちの根源や、ご縁は引き合うことなど、森先生の全一学の思想そのものだと思えます。

偉大なる思想は、その人の生活を変容させる。自己変容をはかり、その人格を変えてゆくのです。言い換えると、大きな思想は、今の私たちの現実の生活のなかにあり、生活の実践を教えてくれている。

すごいと言われる哲学はいろいろあるが、方法のないものは活用できない。森先生の教えは「あいさつ」「返事」「あと始末」と具体的で方法があります。

私自身の実践の中で落とし込んだ言葉は「今ここ立腰ありがとう」。地球の中心に対して鉛直なのが立腰。そのときに天とつながり、エネルギーが降りてくる。それは「ありがとう」と感謝になっていくのです。

（抄録　中川千都子）

《グループ討議会》

廣瀬童心先生の講義を拝聴したあと、講話の内容について、各グループに分かれ塾生みなさんで討議、感動語録を発表しました。

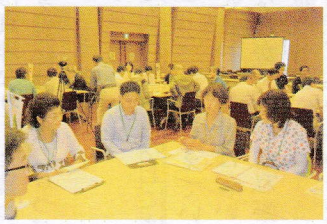
【Aグループ】
① 人間は引き合っている ＝ 縁
② 納豆の糸が絡まり合うような縁を繋ぐ
③ 立腰―鉛直が大事

【Bグループ】
① 心のモノサシ（アルミ箔）を取り除く
② プラスの言葉を投げかける ＝ 帰ってくる
③ 納豆のようなご縁

【Cグループ】
① 思いやり・プラスの言葉
② 納豆のようなご縁（繋がり）
③ ご縁は必然

【Dグループ】
① 心のモノサシをとる
② プラスの言葉
③ 立腰―地球と天とつながること・鉛直

【Eグループ】
① 立腰は鉛直～天と地をつなげる～
② 陰と陽　思いやりと厳しさ
③ 引き合っている～心のモノサシをとる～



【読書会】Aグループ

◇指　導　清水正博　世話人代表
◇テキスト　『先哲・石田梅岩の世界』
◇進　行　山路直美　塾生

塾生待望の清水代表の手になる『先哲・石田梅岩の世界～神天の祈りと日常実践～』が完成し、発行前のほやほやのテキストを使用して読書会が開催されました。

輪読の後、ペア或いはグループ単位でそれぞれが感動した内容について意見交換を行い、石田梅岩の訓えの理解を深めました。

清水代表の総括では、戦後に否定された石田梅岩の訓えを再び広めたい、また人間学塾・中之島の学びの中に石門心学を新たに加え共に先哲からの学びを深化させたいという熱い思いが語られました。

㉛夏は日陰を譲り冬は日当たりを譲る

【意訳】梅岩先生は道を行き来するのに、夏は日陰、ここぞ！、自分は日当たりを歩き、冬は日当たりを人に譲り、きました。

【原文】先生道を往来したまうに、夏は陰を人に譲り、一りをあるき、冬は日あたりを人に譲り、自らは陰を歩行。

凡事徹底、日々修養

【付言】私は知人から寺田一清先生が『石田梅岩に学を尽くす』を著わされたと聞き及び即座にお訪ねしました。扉書では「現代の石田梅岩は鍵山秀三郎先生である」とあります。

第2章　梅岩先生が目指した世界

日本を美しくする会を創始された鍵山秀三郎相談役（イエローハット創業者）は「基本的な生き方」として、次の六つをあげ、小さく積み上げることにより、大きな力が授けられるとしています。

①できるだけ謙る
②掃除を徹底する
③人を喜ばす
④自我を張らない
⑤与えられた枠を使い尽くさない
⑥合掌しみじみ

これらの「凡事徹底」はまさに梅岩先生の「日々修養」そのものです。梅岩先生の探究が生身の師を通して、森信三先生（故人）、掃除道の鍵山先生、ハガキ道の坂田道信先生に出会い、また森先生の著書を輪読する読書会、天分塾、人間学塾・中之島などにて、多くの実践者に影響を受けて参りました。真にありがたい限りです。

69

神天の祈りと日常実践
先哲・石田梅岩の世界
清水正博著
定価５００円＋税

【読書会】Bグループ

◇指　導　寺田一清　顧問
◇テキスト　森信三先生『一語一会』7月
◇進　行　前田知美　塾生

七月六日

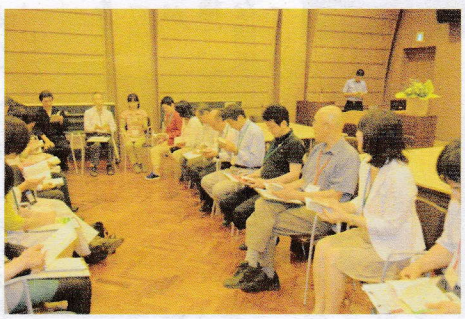
結婚において最も重要なものは、結局は献身的な「愛」への覚悟といえるのではないでしょうか。

七月八日

人間関係について学ぶ授業は、学校の授業料のように金銭ではなくて、まさに「血税」ともいうべく、切実な人生の経験を通して学ばされる深刻な人生教訓といえます。

七月十六日

高すぎない目標を決めて必ず実行する。ここに「必ず」とは、唯の一度も例外を作らぬ―という心構えをいうのである。



塾生の　塾生による　塾生のための塾　で　第三期も共に学びましょう!!

4月11日　野口芳宏
「昭和天皇の御遺徳
—御製を中心に—」

5月 9日　瀬戸謙介
「空手指導を通じて見える
子どもたちの成長」

6月20日　昇　幹夫
「泣いて生まれて笑って逝こう

7月11日　森　美智代
「少食は世界を救う」

8月 8日　卒塾式

◆ 基本会場
大阪大学中之島センター
10F佐治敬三ホール

平成26年　9月13日　入塾式

10月11日　白駒妃登美
「歴史が教えてくれる
日本人の生き方」

12月20日　上甲　晃
「生きる基本を考える」

平成27年　1月10日　鍵山秀三郎
「本当に大切なものは
目に見ることはできない」

2月14日　横田南嶺
「禅の教えに学ぶ」

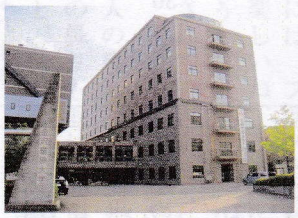
3月14～15日　春季宿泊研修

※ 地元金沢から入塾の、本田　寛・西田京子塾生のお二人に準備していただいています。

3月北陸新幹線開業の記念すべき日です。

◆ 学ぶ
寺岡　賢
「神話に学ぶやまとのこころ」
寺田一清
「人生二度なし先師に導かれて」

□ 学ぶ・観光
・兼六園
・鈴木大拙記念館
・西田幾多郎記念哲学館
・近江町市場　ほか

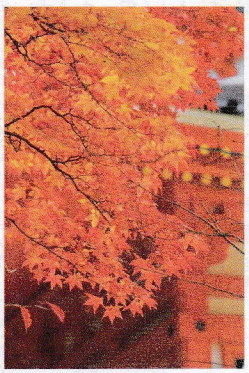


金沢星稜大学の学舎で学ぶ！

兼六園で遊ぶ!!

11月8～9日　秋季宿泊研修

1200年の歴史が息づく山上の聖地高野山



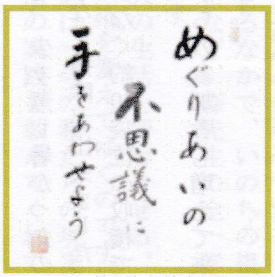
都会の喧騒を離れ錦秋の高野山宿坊でのひとときの學びを…!!

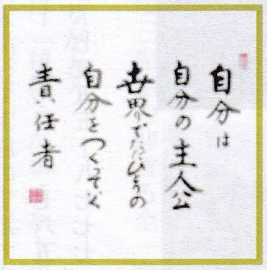
◆ 学ぶ
森　敬恵
「生きる原点を求めて」
水谷謹人
「強運をつかむ10の決断」

□ 学ぶ・観光
・朝の勤行
・写経
・金剛峯寺
・奥の院参拝　ほか

5月 東井義雄先生のふる里を訪ねて

顕彰碑
「拝まないものも　おがまれている
拝まないときも　おがまれている」



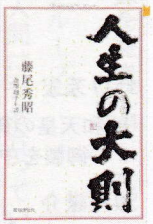


★ 5月(予定)日時は、後日案内します。
場所　兵庫県豊岡市但東町出合
《行　程》
→ 東井義雄記念館
→ 東光寺(東井先生生誕地)
→ 出石城跡
→ 昼食は、出石そば
→ 辰鼓楼
→ 酒蔵見学(出石酒造)

《お薦め書籍》

『人生の大則』

藤尾秀昭 著



致知出版
価格 一一〇〇円（+税）
ISBN -10: 4800910323

『致知』編集長の著者が、35年余に及ぶ膨大な取材を通じて得た〝人生を成功に導くための10篇〟を綴ったもの。「成功者の共通点」「上に立つ者の条件」「創業の精神」「人生の妙味」など、多くの人生の達人や先哲たちが示した生き方の道標となる教えが披露される。20代の稲盛和夫氏が創業期の社員を鼓舞した言葉や、晩年の松下幸之助氏がよく口にした言葉、道元禅師が死の床で残した最期のメッセージなど、拳々服膺したい至言が並ぶ。

《先哲に学ぶ》

好機を待つ

処し難き事に遇わば、妄動することを得ざれ。須らく幾の至るを候いて之に応ずべし。

（言一八二）

【訳】

処置に困った出来事に遭遇したら、むやみに行動してはいけない。よい機会が到来するのを待って、これに対応すべきである。

（『佐藤一斎一日一言』より）

《八月 第二期人間学塾・中之島》

■「卒塾式」

＊日時　8月9日（第二土曜）
＊開塾　午前10時30分（ビデオ放映）（受付午後0時30分～）
＊場所　大阪大学中之島センター　10F

「式次第」

第一部　卒塾式　午後1時　開式
第二部　懇親会　午後3時30分～午後5時　終了

★**第三期入塾紹介キャンペーン**

親族・知人・友人・同僚の方々を、入塾へご紹介くださいますようお願いいたします。

当塾は、みなさま方のご縁や口コミにより新塾生の推薦紹介を頂き「学びの空間」の運営を、「塾生の塾生による塾生のための塾」を主眼に活動していますので、ご協力のほど、どうぞ宜しくお願いいたします。

★**みやざき中央新聞に、募集広告掲載します。**

購読されておられる方は、是非ご覧ください。

《ラジオに登場》

中川副代表が、FM橋本（和歌山県橋本市）のラジオ番組に、出演（録音）します。

「声のミュージアム　むらおはつこ＆黒田ケイナ」

7月18日（金）午後3時から4時に放送されます。お聴きください!!　でもローカル放送局で聞けないジャン!!　でもでも、いまはインターネットの時代。パソコンでNETラジオを検索、世界中で聞くことができますね。

人間学塾・中之島の告知も話していただいております。ちなみにパーソナリティーの黒田ケイナさんは、毎月の講座を、録画していただいています。

《淀川掃除に学ぶ会》短信

世話人　志村隆夫

▼先月でこの会も満10年が過ぎ、この7月から11年目を迎えました。10年前に佐藤弘一様、小西勝人様が始められ早や10年が過ぎ、最初は5～6名だったメンバーも今は50名を超える会に成長致しました。これは、一重に佐藤、小西様の環境整備、自然保護の熱い情熱の賜物と思います。また、黙々とサポートされる石丸様、よしやの神吉会長様のご尽力のお陰です。

7月6日は梅雨の晴れ間で、少々蒸し暑かったのですが、雨にも降られることなく掃除が出来ました。参加者は35名、ゴミの袋も少なく約30袋位の収穫でした。

毎回、人間学塾・中之島からの参加者も増えて来て誠に喜ばしいことと思います。

来月は8月3日に雨天決行で実施の予定です。。

問合せ　〇九〇ー一八九四ー一七六五（小西）
〇九〇ー七五五五ー八七七七（志村）